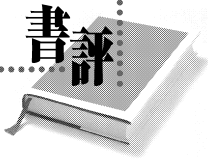


書評



日本神経学会 監修

「てんかん治療ガイドライン」作成委員会 編

てんかん治療ガイドライン 2010

渡辺雅子

集学的治療ネットワークの地図となる書

本書は下記の 2 点で歴史に残る画期的な本である。その 1 点は日本神経学会が複数の学会へ協力を呼びかけ作成したという発行の特異な経緯であり、もう 1 点はその姿勢と内容の先進性にある。

まず第 1 の点について、発行に至る過程を関連学会(日本てんかん学会)の事務担当理事として拝見してきたので、述べさせていただく。今回は特に、関連する複数の学会(日本てんかん学会、日本神経治療学会、日本小児神経学会)へ協力が呼びかけられ、関連学会からの委員を含む合同委員会で作成された。具体的には神経内科医のみならず、小児科、小児神経科、精神科、脳神経外科の医師が内容作成に直接かわった。

この過程で、委員同士の直接の討議を介して、各専門分野のてんかん診療の現状、てんかん学の知識の多彩さを委員同士が認識した結果、項目立てが充実して真に包括的となった。具体的には「自動車運転免許についてアドバイスする点はなにか」というクリニカル・クエスチョンや「てんかんと女性(妊娠)」の章などを設けたのはまさしくその成果である。想像であるがおそらく委員同士でも、それぞれほかの学会が持つ専門文化(一流企業の持つ企業文化のようなもの)を知るよい機会となったことと思われる。

第 2 の点については、クリニカル・クエスチョンに基づく回答方式で作られており、必要ときに必要な情報が短時間で得られることである。さらにそれにはエビデンスレベル、推奨グレード、および検索式・参考にした二次資料がついており、初学者に誠に親切な構成である。日本で発売されていない抗てんかん薬治療や利益相反に関しても配慮され、公正で客観的な記載内容であることも特筆に値する。

以上の経緯と内容から、本書の作成には委員間の意見のすりあわせに多大なご苦勞があったことが想像され、それを乗り越えて短期間で完成された辻貞俊委員長および委員の方がたの熱意に敬服する。葛原茂樹前代表理事、水澤英洋代表理事をはじめとする日本神経学会理事会のバックアップも強い推進力となったことであろう。今後はわれわれ一人ひとりがこれを臨床に生かして、よりよいてんかん診療を行うことが肝要である。

てんかんは脳内ネットワークの障害であるが、それを克服するのも医師・家族ら関連する人々のネットワークである。そのときに本書はネットワーク連携の中の時刻表や地図のような存在として頼られることであろう。

(国立精神・神経医療研究センター病院精神科)

●B5 168 頁 2010 定価 5,250 円(本体 5,000 円+税) 医学書院